その他（自由選択科目）: 海外教育実践体験実習

担当教員 : 隅田学，河野極，鴛原進，菅谷成子（法文学部），竹下浩子，大橋淳史，熊谷隆至，池野修，藤田昌子，苅田知則，河村泰之，高橋治郎，富田英司，ボグダン・デイビッド，深田昭三，向平和，吉村直道，高橋志野（国際連携推進機構），ルース・バージン（国際連携推進機構）

フィリピン海外教育実践体験実習（ステップコース）

理科教育講座・隅田学

授業の目的

今年度より，フィリピン大学（学術交流協定締結校）と連携協力しながら，これまで行ってきた，英語を教授言語として授業を計画・準備し，現地渡航して授業実践を行い，教育分野における国際的な感覚を培うことを目的とした海外教育実習プログラムを，授業実践中心のアドバンスコースと授業観察中心のステップコースに分けた。今回は，後者のステップコースについて報告する。

受講者数と行程

本授業は，フィリピンでの教育実践体験への参加を受講の条件としている。受講者数（渡航者数）は２０名であった。２０１７年２月１９日～２４日の６日間，現地渡航し，各種学校訪問と授業観察，フィリピン大学生との交流，そして文化視察を行った。その行程は以下の通りである。今回は，法文学部の菅谷と教育学部の隅田の教員２名が引率を行った。

２月１９日　移動日
２０日　公立小学校訪問（San Vicente Elementary School）・授業観察
フィリピン大学教育学部との交流ウェルカムパーティ
２１日　フィリピン大学附属小中高等学校訪問・授業観察
２２日　コミュニティスクール（PAUW UP Child Care Center）訪問・授業観察
フィリピン大学ディリマン校長表敬・フィリピン大学中央図書館訪問
サンクスパーティ
２３日　文化視察
２４日　移動日

授業観察シートの開発

各種学校訪問での授業観察では，オリジナルに開発した観察シートを学生に配布し，記入させた。記入したシートは，翌日の朝に回収した。

授業観察シートは，氏名や観察した学校名，授業時間，学年，授業トピック（教科）の基本情報を記入した後に，教師と児童生徒とのやりとりを理解できたかどうかについて，１（全くできなかった）～５（十分に理解できた）の５段階で事故評定し，特に印象に残ったことや考えさせられたことを自由記述するようになっている。

そして，１日に観察した複数の授業を総括して，①授業目標（内容）について，②教材・教具（・ワークシート）について，③指導方法について，④子どもの実態について，⑤教師と子どもとの関係や学級経営について，そして⑥その他について，１（日本と全く違っていた）～５（日本と非常によく似ていた）の５段階で評価し，①～⑥のそれぞれについて授業中の事例を挙げながら自由記述するように求めた。

結果

まだ帰国直後のため，詳細なデータの分析は行うことができていないが，授業内容の理解度に関しては，授業の教科内容や学年に関わらず，コミュニティスクール（PAUW UP Child Care Center）が最も高かった。その主な理由としては，教授言語の英語の問題が挙げられる。コミュニティスクールの幼稚園児を対象とした英語での学習活動は，日本の中学１年生の英語授業レベルとほぼ同等で，身体表現を含めた多様な学習活動が含まれるため，様々な専攻や学年の大学生が十分に理解し，授業に参加できた印象を持ったものと思われる。

観察した授業を内容，教材，指導法，子どもの実態，学級経営等の観点から日本と比較する点については，特に子どもの実態について，日本と異なると回答している大学生が多いように思われる。学習・内容への興味関心や有用感，自己肯定感が低いことが指摘されている日本の児童生徒と良い比較になったようである。